

第5回（平成26年度）日建連 快適職場表彰の実施報告

日建連労働委員会では、「第5回（平成26年度）快適職場表彰」の表彰式を執り行いました。
今回、ご応募いただいた会員企業の優れた取組みについては、水平展開を図り「作業所労働環境の改善」と「建設業における女性の活躍」を推進して参ります。

■制度の目的

- 日建連会員の作業所において、建設業の人材確保・育成に取組む日建連会員にふさわしい快適職場環境の高度化に寄与すること
- 女性の活躍を促進すること……【第5回（平成26年度）より】

■応募状況

- 募集期間：平成26年12月1日～12月31日
- 応募総数：164件（21社）
- 応募状況：新たに女性にとって働きやすい職場環境づくりを選考基準としたこと等により、応募件数、社数ともに前年に比べ増加した。

■選考結果（平成27年2月9日に選考会を開催）

- 最優秀賞：1件
- 「けんせつ小町」優秀賞：1件……【第5回（平成26年度）より】
- 優秀賞：3件
- 特別賞：10件

〈選考委員会メンバー〉（敬称略）

委員長 芝浦工業大学 工学部建築工学科 教授 蟹澤宏剛
 委員 国土交通省 土地・建設産業局 建設市場整備課 労働資材対策室長 松下雄介
 委員 (一社)建設産業専門団体連合会 会長 才賀清二郎
 委員 (株)日刊建設工業新聞社 編集局長 横川貢雄
 委員 (株)日刊建設通信新聞社 編集局長 秋山寿徳
 委員 (株)日刊建設産業新聞社 編集局長 徳田健一

■表彰式（平成27年3月19日に開催）



（最優秀賞、「けんせつ小町」優秀賞、優秀賞受賞の皆様）



（特別賞受賞の皆様）

〈蟹澤選考委員長による講評〉

人手不足の解消には、若い人に現場の魅力を感じてもらうことが大切であり、現場はそこで働く様々な人に優しい職場であって欲しい。快適職場への取組みは、その第一歩である。
 受賞作業所は、先進的な取組みをされている。

〈今井労働委員長による挨拶〉

技能労働者に対する温かい思いやりと、建設業への熱い思いと誇りによって快適職場への取組みがなされている確信している。
 来年度からは、例えば、社会保険加入促進や休日増加に向けた取り組みといった要素も選考基準に加えても良いかと考えている。

■受賞作業所の特長的な取組み

- 働く職人の姿を撮影し、仲間や家族に配布、さらには発注者にも紹介
- 発注者から職人、さらには家族までの合同行事（BBQ、集合写真等）を開催
- 家族、近隣住民、入職促進を目的とした学生向け等、現場見学会の充実
- 「なでしこ工事チーム」等を結成し、女性の感性を取り入れた現場管理を実施
- 現場に女性専用トイレを整備し、さらには男性用との間仕切りや目隠し等を設置
- 女子更衣室を設置し、さらには大きな鏡を配置する等により設備を充実

最優秀賞の紹介 ～（仮称）秋葉原開発プロジェクト新築工事作業所 大成建設㈱～

テーマ：【家族に誇れる・家族から見える職場】

- ①『節目での家族見学会の実施』：現場の見学及び記念撮影、懇親会などの充実
- ②『自分の存在意義・記録と記憶を残す』：職人として真剣に働く姿を撮影
- ③『発注者から職人までの一体感の共有』：合同のBBQ大会の開催

〈伊藤所長のコメント〉

家族に誇れる記憶に残る現場にして、次の世代に継ぎたい。



「けんせつ小町」優秀賞の紹介 ～（仮称）阿倍野王子町計画新築工事（株）長谷工コーポレーション～

テーマ：【安全・美しい現場で「働きやすい職場」作り、「いいモノ」作り】

- ①『きめ細かな配慮』：女性の感性を取り入れた現場管理
- ②『作業所のしつらえ』：作業所の顔である入口を整備
- ③『まずは足元から』：高齢者・女性作業員・不慣れな作業員等に配慮

〈保田所長のコメント〉

作業員が気持ち一つにして現場の美しさを維持することが重要。

〈石田所員（けんせつ小町）のコメント〉

男性だから、女性だからできることを考え、より良い現場づくりを目指す。



第5回（平成26年度）日建連 快適職場表彰の選考結果

No.	表彰名	会社名	工事件名	テーマ設定の理由	「快適職場」作りの実施事項と効果					
					①		②		③	
					実施事項	効果	実施事項	効果	実施事項	効果
1	最優秀賞	大成建設株式会社	(仮称)秋葉原開発プロジェクト新築工事及び新築工事に伴う解体工事	閉鎖された仮囲いの中での見えない仕事(職場)を、そこで働く職人が存在意義を持ち、家族に誇れる・家族から見える仕事(職場)にしたい	【節目での家族見学会の実施】 ・職人の家族を招いての模擬朝礼、体操、危険予知活動 ・現場の見学及び記念撮影 ・発注者、設計事務所、作業所所属、職人とその家族の懇親会の開催	普段はわからない現場で働く職人の姿・環境を家族に知ってもらうことで、家族との仕事についての会話が生まれ、また家族お互いが感謝しあうきっかけとなり、今後のモチベーションの向上につながった。	【自分の存在意義・記録と記憶を残す】 ・工程写真ではなく職人として真剣に働く姿を撮影し、本人や仲間・家族に渡す。 ・節目での表彰を行う。 ・写真や動画をDVDで編集し、安全大会時に配布する。	職人にフォーカスした写真を撮影し配布することで、職人が自分自身では知らなかった自分の働く姿を知り、自分の存在意義や仲間との関わり・その大切さを知るきっかけとなっている。	【発注者から職人までの一体感の共有】 ・施主・設計事務所への現場見学会の随時開催 ・職人の働く写真や編集したDVDの発注者への展示 ・発注者、設計事務所、職人とその家族での合同のBBQ大会の開催	発注者が現場・職人の素晴らしいことや苦勞の理解を深め、出来栄だけでなく一日の経過を共有することで現場との一体感を醸成している。また発注者から直接職人に感謝の意を伝えていただくこともあり、職人の誇りややる気が芽生えるきっかけとなっている。
2	「けんせつ小町」優秀賞	株式会社長谷工コーポレーション	(仮称)阿倍野区王子町計画新築工事	安全な美しい現場が、働きやすい職場・いいモノ造りの第一歩である事をモットーに、新しい目線(女性も含む)で見て、「スキ・モレのないきめ細かな配慮」がなされた現場を目指して行く。	①きめ細かな配慮 新しい視点・女性の感性を取り入れた現場管理を行うために「あべの王子小町」を結成。「(なでしこ工事チーム)」に登録済) 今後のいろいろな活動を通して、「スキ・モレのないきめ細かな配慮」を推進していく。	現在、7業種11名の女性が参加して「あべの王子小町」チームとして活動中。(メンバーは今後更に増える予定) まず女性用のインフラ整備から始め「働きやすい職場」造りを進めている。全作業員のサポートを受け鋭意展開中。	②作業所のしつらえ 作業所の顔である入口を整備、先行して道路・歩道を仕上げ工事中も使用する。歩車分離かつゲートを後退させ入退場時の交通災害リスクの低減を図る。また、事務所・詰所までの安全通路も兼ねて歩道を利用する。	作業所を訪れる方(第三者も含む)の第一印象を良くし、作業所全体のイメージアップになっている。緑地帯の設置・コーナー部分の透明万能版の採用・警備員ボックス上部の屋根の設置等のきめ細かな配慮を感じてもらい全作業員の意識向上につながっている。	③まずは足元から高齢者・女性作業員・不慣れた作業員等に配慮する為、詰所廻り、場内の段差を極力なくし、雨天時においてもスムーズな歩行が出来る様に場内をほぼフラットに整備、コンクリート舗装・敷鉄板・ラインペイント等で足元廻りの整備を強化する。	足元廻りを整備する事が作業所全体の美化に連鎖していく。土・泥・埃等が少なく雨天時でも通路・トイレ・建物内・詰所内を汚すことがない。整備された通路の廻りには整然と材料・資材が並べられ、安全で美しい現場で「いいモノ」造りに取り組んでいる。
3	優秀賞	戸田・金子・永田 特定建設工事 共同企業体	(仮称)総合スポーツセンター体育館 新築工事(建築本体工事)	「作業員さんがぜひとも行きたいと思う現場」=「魅力ある現場」だと思います。作業所の魅力をUPさせるのが、 ①作業環境の向上 ②段取り力の向上 ③チーム力の向上 の3点だと考えました。	作業環境の向上の為に新たな休憩所への挑戦を行いました。卓球台・畳スペースを完備した「リフレッシュルーム」。テーブルクロスやタイルカーペット敷きの「清潔な休憩所」。女性でも安心して使用できる「女性専用水栓トイレ」等を設置しました。	「リフレッシュルーム」や「清潔な休憩所」は、休憩時間に横になることができたり、卓球できたりととても快適な時間が過ごせると好評でした。女性用トイレは女性作業員が配員しやすくと評判でした。	「PC化・システム化」により作業員さんへの負担を軽減することが出来た。また、「ワークシェア化」により各社の作業量を均一化し少数精鋭の固定メンバーで工事ができました。他現場への移動がなく、朝・夕にゆとりの時間が持てました。	チーム力の向上として、「大運動会の開催」・「職長会名の決定→KSC48」・「朝礼後チーム対抗のウォーミングアップ縄跳び」・「発注者・設計・監理・施工者・作業員による集合写真撮影」等各種イベントを多数開催しました。	大運動会は職長会主導で開催し他業種間での絆がとても深まりました。また、工程の節目では、作業員さんと発注者・設計者と一緒に集合写真を撮影し、より一層連帯感が強くなりました。	
4	優秀賞	大林・大本 建設共同企業体 (特)	千住閤屋ポンプ所 建設その3工事	現場の職場環境は、「現場で働く全員が当事者となり作り上げる」という理念のもと、JV職員と職長会が一丸となって環境改善に取り組む雰囲気を作り、その協体制のなか近隣住民への最適・最良の対応を行う。	職長会では職場環境改善の観点からトイレや休憩所の清掃を担当。快適職場に貢献した作業員を Good Job Worker (GJW) に選出。女子更衣室と女性専用トイレを設置、「女性の会」では職場環境の意見交換の場を設けた(現在女性就労者5名)。	職長会では活発に意見が交わされ、GJWの選出から業者の垣根を越えた連携を図る事ができ、環境改善と同時に現場雰囲気も活性化された。また女性の会発案による女性目線の細やかな意見を取り入れ、詰所の分煙化や朝礼時の身嗜み確認を行い快適職場へ貢献した。	(ATK)安全点検確認(KY)危険予知を一人で行う一人ATKY(アタックケイワイ)活動を実施。重点項目を選定、指差呼称の看板を掲示。音声支援装置と指差呼称ゲートを設置。月に一度訓練日と一人ATKY推進委員によるパトロール日を設けた。	一人ATKY推進週間で実施したアンケート結果によると、一人ATKYを行った回数が平均8回/日以上となり声掛け作業が増え、各作業場所に対応した看板や現場ルールを掲示し、危険個所の注意喚起を行った事で、個々の安全に対する意識向上に繋がった。	近隣住民や業界関係者を対象に現場見学会を定期的に行い、約100回開催、約2000人が来場。小学生参加時には職種別座談会を実施。現場防音壁には近隣の小学校の生徒が描いた絵の掲示や、12月にはタワークレーンにイルミネーションを設置した。	見学会では工事の理解を頂くと共に近隣住民と良好な関係を築き、小学生参加時には座談会と重機遠隔操作・高車・クレーン合図体験を行い質問を次々と受け、次世代の工事への興味を促進した。イルミネーションは大好評を頂き建設業のイメージアップに貢献した。
5	優秀賞	株式会社竹中工務店	釜石市上中島町復興公営住宅Ⅱ期整備工事	東日本大震災の被災地域における復興工事は、周辺の食住環境が整わない中で、遠方から赴任する作業員にとって厳しいものとなっている。当作業所では様々な面から環境を整備し、作業員が働きやすい職場を目指した。	被災地の宿舎不足が深刻な中、建築主の遊休資産となっていたアパートを50室借上げ、備品、寝具、家電から厚生用品までを元請で準備し、遠方から来る作業員が不自由なく生活できる体制を整えた。	遠方から赴任する作業員がストレスを感じることなく被災地での生活を送ることができた。また同居している作業員同士の絆が深まり、工程通りに復興公営住宅を建設するという目標に一丸となって取り組むことができた。	自炊が苦手な作業員のために、事務所の一部を休憩所兼食堂と改造したうえで、地元の食材店と契約をし、元請職員及び協力会社作業員向けのケータリングを実施した。	周辺に食事を提供する店舗が乏しい中、元請主導でケータリングサービスを実施したことにより、遠方より単身で赴任した作業員が食事環境に不自由せず、栄養価の高い食事を摂取することができた。	積極的に女性職員による安全衛生パトロールや、女性を含む地元高校生による現場見学会を実施し、女性が働きやすい環境整備と魅力ある職場づくりに取り組んだ。	いつもとは異なる視点で作業所を点検してもらうことで、特に衛生管理面で多くの気づきがあった。女性が安心して働く職場となるよう女性用トイレや女子更衣室の設置等様々な施策を行うきっかけとなった。また、若者へ建設業の魅力をアピールすることができた。
6	特別賞	鹿島建設株式会社	勝どき五丁目地区第一種市街地再開発事業施設建築物等新築工事	①いつも明るく誠実に仕事をして、まわりの人との信頼関係を築く。 ②まわりの人との意思疎通を図り、チームワークの良い組織を作る。 ③皆が全力を発揮できる環境、皆が誇りに思える現場を目指す。	解体工事中は粉塵・騒音・振動に注意しながら工事を行った。近隣に配慮した様々な取り組みを知ってもらうため現場見学会を開催し、近隣住民、現場作業員の家族に重機の運転席乗車体験、作業状況のDVD上映、屋台、ゲームコーナーを楽しんでもらった。	近隣住民を現場内へ招き見学会を行うことで、多くの方々に触れ合うことが出来た。現場作業状況のDVD上映することで粉塵・騒音・振動抑制に対する現場の工夫や常に近隣住民の立場にたつて工事を行っている我々施工者の思いを伝える事が出来た。	電気漏電実験による電気取扱い安全講習や担架を用いた救護訓練、立ち馬の正しい使用方法の安全講習、講師を招いた定期的な腰痛予防体操指導等を実施した。また、社員・作業員の親睦を深めるため餅つき大会、BBQ大会、納涼会等を行った。	様々な安全講習で安全に対する意識を深める事ができた。また、NHKラジオ体操に出演している指導員による体操指導では、腰痛等への予防効果があった。納涼会では暑い中作業を行う作業員へそらめん・きゅうり・かき氷を振る舞い、熱中症対策に繋がった。	WBGT警報ランプやカラーランプ表示の風速計により事務所の社員へメールや警報で知らせるシステムを構築した。ウォッシュレット付洋式便座の男女別トイレや休憩所には暑い中作業を行う作業員へそらめん・きゅうり・かき氷を振る舞い、熱中症対策に繋がった。	熱中症指数や風速が一目で分かり、注意すべき状況になると自動的に社員に警報が発せられるため、作業員の危険防止に繋がっている。作業員の立場になって環境整備を行うことにより作業効率の向上に繋がっている。
7	特別賞	大成・増岡組 建設共同企業体	(仮称)新鉄鋼ビル 建替計画	建設現場で働く一人一人にとって明るくコミュニケーションのある魅力的な職場環境造りを心掛け、又未来の建設業と環境保全のためできることを積極的に実行する意志を込めた。	『働くひとりひとりに思いやりを持った施設整備と制度』 ・女性専用施設の整備 ・作業員シャワー室、ウォッシュレット完備 ・施主設計、家族も参加のBBQイベント・おにぎり会(幹部社員と職長の懇談)実施・全社員、職長によるすみずみPT実施	女性用の専用更衣室・トイレを整備し、女性が働きやすい環境とした。BBQ大会には施主と家族も参加しコミュニケーション向上に繋がった。おにぎり会では和やかな雰囲気の中で職長から忌憚なき意見を聞け職場環境等に繋がった。	『現場でできるエコプロジェクトの推進』 ・ゴーヤ栽培による環境美化 ・ミスト散水による猛暑対策 ・節電活動の励行(LED採用等) ・ゴミの分別徹底 ・職長会による現場近隣清掃の実施	環境負荷が多い建設業で果たすべき使命として、ひとりひとりが環境保全のために活動できるよう、様々なイベントや整備をし、現場への意識を高めることができた。	『“将来の建設技術者”への現場見学会の実施』 学生に対して現場見学会を3回実施し、朝礼から参加してもらうことで授業では見れない建設現場ならではの「ものづくり」に触れる機会を提供した。	設計図で書かれたものが施工されていく過程を学び、建設現場の雰囲気を感じてもらうことで、建設業のやりがいや魅力、女性の活躍を積極的にアピールし、3Kのイメージ払拭し次代の担い手として目指したい業界と繋がっていただいた。

No.	表彰名	会社名	工事件名	テーマ設定の理由	「快適職場」作りの実施事項と効果					
					①		②		③	
					実施事項	効果	実施事項	効果	実施事項	効果
8	特別賞	大林・鹿島 特定建設工事共同 企業体	357号東京港トンネル(その2)工事	当JVは、職員・技能労働者の方が、快適に就業できる作業環境を整えるだけでなく、昨今増加している「女性技能者や若者にも魅力的な環境づくり」や「省エネ」活動に積極的に取り組んでいます。	【女性にもやさしく】「なでこ工事チーム」に登録し、ミーティングを実施。その結果を反映し、ウォッシュレットを設置。また、トイレ利用時のプライベート空間を確保するため、男性用に目隠し、女性用に間地に積極的に取り組んでいます。	女性用トイレは、設置スペースが限られるため、男性用トイレと同列に設置されるケースが多い。当JVプライベート空間を確保するため、男性用に目隠し、女性用に間地に積極的に取り組んでいます。	【若者にもやさしく】休憩所にエアコン・冷蔵庫・製氷機・電子レンジ・ポットを用意し、温かい食事を摂りやすくした。また、畳を敷き休憩時に横になれるスペースを設けた。また、作業終了後に汗をながせるようシャワールームを設けた。	電子レンジ・ポットを用意したことにより、温かい食事を摂ることができるため、技能労働者の方たちに好評である。エアコン・冷蔵庫・製氷機は食中毒の防止、熱中症予防にも効果的である。	【環境にもやさしく】JV事務所会議室の蛍光灯をLED蛍光灯への変更や処理後の工事用水を再利用し、JV事務所の屋根を散水し、夏場の空調温度を1～2℃高く設定することにより、消費電力量の削減が可能となった。	蛍光灯の変更により、会議室の消費電力を30%削減することが可能となった。また、エアコン温度を1℃あげることにより、消費電力が10%削減される。
9	特別賞	大成・大林・三井住友 特定建設工事 共同企業体	幌延深地層研究計画地下施設整備(第Ⅱ期)等事業	建設業が女性や若手技術者から敬遠されてきた理由は、3K(「きつい」「汚い」「危険」)だとされてきた。これらに対して、機械化や、ICT、自律制御装置を活用推進することで、環境改善を図った。	機械化、ICT、自律制御装置の活用推進により、作業内容の負担軽減(重量物の運搬、反力のいる作業、グラウト注入管理(注入圧、注入量、比重)など)、作業環境の改善(環境・設備状態・計測・施工データの自動取得、モニタリング、遠隔操作など)を実施。	重量物運搬はクレーン設備を配置して低減し、反力のいる作業を機械で行えるように改良した。また、グラウトの注入管理を自律制御可能とした。更に、中央監視室で環境監視や換気・排水設備などの自動制御も可能とし、スマートで安全な作業内容・環境となった。	女性職員や来客者に愛される「美しい」現場を目指して、整理・整頓・清掃・清潔だけでなく、一般見学者向けのペイントや掲示板、プラントなどを整備した。また、女性職員が働きやすいように、女子更衣室・休憩室、女子トイレも完備し、清潔に維持している。	プラントや掲示板などを設置して、見学者通路を美化することで、見学者からは「現場じゃなくて工場みたい」と言われるようになった。また、作業員らの意識も改善し、作業場所も自発的に整理整頓に心掛けるようになった。女性職員も出産後も復職、復職希望。	精神的にも向上されなければ快適職場とは言えない。自由闊達なコミュニケーションを行えるよう、各社の業務内容に応じた事務所、休憩所を提供。「危険」の排除にも、個人の危険感受性の向上が重要であり、月1回、災害事例を用いた背後要因推定教育を実施。	年に2回、全関係者が集まったの焼肉大会では、自由闊達な話し合いが行われる。また、背後要因推定教育を行ってきた結果、昨年に引き続き今年も現在まで無災害を継続できており、これらの取組についてまとめた論文が今年度の建災防の全国大会で表彰された。
10	特別賞	株式会社 熊谷組	成城学園創立100周年記念教育環境整備事業 中高一貫校一貫校舎新築工事	業者の垣根を越えた声掛けを行い、職長会を中心に作業員同士のコミュニケーションを活発にすることにより仲間意識を向上させ、自分の家族を案内できるような安全で快適な職場を実現させる。	作業所の一員であることを自覚してもらう為に新規入場者は朝礼時のコミュニケーションを活発にすることにより仲間意識を向上させ、自分の家族を案内できるような安全で快適な職場を実現させる。	朝礼を職長会が運営して全員参加の安全施工を意識、更に新しく入る仲間を簡単に自己紹介することができる。また、他業種の職長も新規入場者の名前を呼んで声掛けができ、スムーズな工事運営ができ快適な職場環境が形成できる。	職長会が中心となって行なう安全・環境活動の取組を紹介した職長会月刊誌「ふれあい広場」を発刊、これを施主、作業員へ配布。また、近隣へのアピールとして仮囲いへ掲示。	新規入場者でも職長会の取組や、現場進捗状況が把握できる。月刊誌は各家庭に持ち帰ってもらい、家族に見てもらって仕事の内容を理解してもらうことができる。また、作業員のやる気にもつながる。思い出に残る現場にできる。	工事着手から完成までの作業状況及び職長会活動をDVDにまとめ製作。作業員全員へ配布。仮囲い内限定でラジコンヘリコプターを飛ばし空撮写真・映像も取り入れる。	作成したDVDも各家庭へ持ち帰ってもらい映像と音によって月刊誌ふれあい広場以上の効果を出せることができる。また、施主定例での発表で「現場の見える化」を実現。高評価を得られた。
11	特別賞	清水・日本土建 共同企業体	(仮称)百五銀行新本館 岩田棟新築工事	仕事のしやすい安心安全な現場環境づくりを作業所のテーマとした。(快適な職場は安全、品質、作業効率も向上するので積極的に推進する。)	職長会によるフロア管理、パトロール→毎日作業終わりに各フロアマスターが清掃状況の確認。週に一度、職長会でパトロールを行い指摘事項を発表、該当業者には是正を指示するようにしました。	・毎日フロアの確認を行うことで、ゴミの放置が激減しました。 ・実際に作業をする人の観点で場内の不備がわかるようになりました。 ・安全環境の両面で責任を与えることで、職長の意識が向上しました。	作業員休憩所の冷暖房完備(夏場は熱中症の対策)→五か所ある休憩所、喫煙所にはすべて冷暖房を完備しました。夏場は熱中症アメ、冷凍庫、かき氷、製氷機、ウォータークーラー、各階に簡易避暑地を設置しました。	・作業する近くに簡易休憩所を設置し、必要なときに休憩できるようにしました。 ・休憩所はリラックスできるよう、4Sに心がけました。 ・夏場は熱中症患者0名達成しました。	職長会の活性化 →ヘルメット作成、イベントの開催、無線を用いた作業調整	・職長ヘルメット作成によって、職長の意識が向上しました。 ・忘年会、餅つき大会での作業員同士の交流が、仕事へも好影響を与えました。 ・職長全員に配布した無線にて作業調整を行うことで、現場全体で問題を共有できるようになりました。
12	特別賞	浅沼・白石・清本 建設共同企業体	都立練馬工業高等学校(24)改築工事	整理・整頓・清潔・清掃・作業所ルールとは職場の原点であると捉え、プロジェクトに携わる若者男女のあらゆる階層の方々が安全で働きやすい職場環境を確立して、建設業の未来発展に寄与する事は私共の使命。	工事現場の入口から現場内までのエリアを徹底的に整理整頓を実施すると共に、安全な通路を常時確保する。スローガンや安全環境目標などの共有すべき事項は見える化を図る。作業環境の向上はみんなで実践→維持→改善を繰り返す徹底。	発注者・設計監理者・元請・協力会社など全ての方々から高い評価を頂いています。特に増加の一途をたどる高齢労働者に対しては整理されて識別しやすい快適な環境は必須でもあり、又、これらの快適さは女性労働者にも有効である。	現場事務所の机上は常に整備し、華やかな環境を創造する。加湿器・足元暖房器・給湯設備等を装備すると共に更衣室もゆとりを持った空間として女性に対する配慮を実施。文書・記録などの大切な書類は常に整然と整備。分煙化実施。	5Sは身の回りから!を合言葉にして事務所スペースの快適さを高度化させることにより、作業所全体の快適さの向上につなげています。施主・設計・元請にはそれぞれ女性技術者が配属されており高い評価を得ております。	各所に空気清浄機の設置はもとより、『清潔さ』の確保・向上としてシャワー室、洗濯室、トイレのウォッシュレットや流水音発生装置などを完備して、快適なユーティリティスペースを実現しております。トイレは女性専用として社員用と作業員用にそれぞれ配置。	夏季の屋外作業などで大量の汗をかいたあとはシャワーを浴びてリフレッシュ出来て、汚れた作業着はその場で洗濯可能であることなど、若手社員の利用率が非常に高く効果絶大です。帰宅前のリフレッシュにも有効。女性への配慮としてトイレ付属設備は高評価。
13	特別賞	株式会社 フジタ	東海北陸自動車道三尾河トンネル工事	トンネル工事に女性工事係が在籍。異性を気にせず、勤務できる環境を作りたい。また、3Kイメージの工事事務所から職員・来訪者を快適にする事務所に転換したい。	・事務所・宿舍の生活設備を男性用・女性用に分ける ・宿舍の生活エリアを分離、女性部屋はワンルーム化(6畳部屋+風呂+洗面+洗濯+トイレ)	・事務及び食事以外の共用部分が分離され、異性を意識する環境が低減 ・居住設備(風呂等)を共同使用しないため、時間に拘束されず利用できる。	事務所内に工事で汚れた服・体を洗う設備、着替える居室(洗濯機+暖房付きシャワー室+ロッカー室)を設置した。	・工事で汚れた服装を事務所内に持ち込まなくなった。 ・宿直者が厳寒地の冬季でも体を洗うことができる。 ・相乗効果で事務所の清掃や清潔度が向上した。	喫煙室を設置し、完全分煙とした。	事務所内にタバコの匂い・煙が入ることが無くなり、タバコによるストレスが無くなった。
14	特別賞	株式会社 長谷工コーポレーション	(仮称)今福東2新築工事	「美しい現場」が快適職場形成の基本と考え、職長会と共に「すべての工事従事者が胸を張って誇りに思える現場に」を実践して、全作業員が心身共に働きやすい環境づくりに参加する。(所長方針継続)	①作業環境管理 「美しい現場」の方針の浸透・実行・維持・管理は、作業員全員の協力なしでは達成できない。職長会で率先して1つの事を成長させる(緑化・菜園等)事から始め、現場全体の成長につなげていく。	場内の入り口からの安全通路際に家庭菜園コーナーを設置して作業員全員で育てていった。また、休憩所前に緑化コーナーを設けて維持管理を行った。その結果、お互いの意思疎通が図れ5Sの意識が向上し、個々の作業場所・作業状況の安全管理に繋がっている。	②疲労回復設備の充実 工事最盛期が夏季と重なるため、早い時期(6月初旬)から職長会と共に計画的に熱中症対策(休憩所等)の充実を推進した。大型休憩所(ミスト・扇風機常設)を整備、トイレユニット(エアコン付)・シャワールームを併設した。	夏季の作業に於ける疲労回復の場所・各作業員のコミュニケーションの場所として常時利用されており、作業所内での安全・環境・品質についての井戸端会議の場所となつて非常に有効であった。また、涼しいトイレ・体を冷やすシャワールームも非常に好評であった。	③躯体施工階の熱中症対策 夏の暑い時期が躯体工事の繁忙期となるため、躯体最上階の作業員用にクライミング式「熱中症対策シェルター」を設置した。内部には、スポットクーラー・扇風機・ベンチ等を備え、十分な休憩ができるように配慮した。	最上階の炎天下で作業を行う躯体業者にとって、施工階から下階に移動することなく、同じ階の日陰休憩所で休憩ができて、かつ、個々の作業にあわせた時間をみつけて休憩できるスペース(他の作業の邪魔にならない場所)として利用できて非常に好評であった。
15	特別賞	五洋建設 株式会社	鹿島港外港地区南防波堤災害復旧工事	当工事は、日本で最も海象条件の厳しい場所であるが、①女性パトロール、②新技術の導入、③地域貢献や職場のイメージアップなど様々な対応をし、工事関係者のチームワークで乗り切っているため。	【女性パトロールの実施】女性目線で、現場を点検し、かつ、指示するだけで無く、不適箇貢献や職場のイメージアップなど様々な対応をし、工事関係者のチームワークで乗り切っているため。	女性目線で作成した「女性パトロール点検表」を使用することで、トイレの美化、現場事務所の整理整頓、分煙の徹底など、職場環境改善につながった。また、工事関係者に現場への女性参入意識を持たせることができた。	【新技術の導入】 ①広範囲における工事の現場従事者の把握、②社会保険加入勧奨、③熱中症対策のための給水管理を自動的に管理するため、五洋建設開発の新技術【Color System (HR-14017-A)】を導入した。	当システムを導入することで、工事関係者が作業船や陸上詰所等どこにいるか、熱中症対策で給水しているかをリアルタイムに事務所から把握できた。また、社会保険未加入者に対して自動的に加入勧奨できた。	【地域貢献等イメージアップ】茨城県内にある現場事務所のイメージアップのため、茨城県マスコット「ハッスル黄門」の使用申請をし、ポロシャツ・ポスター等に活用した。また、現場代理人が東京湾大感謝祭で環境保護の重要性を説明した。	「ハッスル黄門」を使用することで、現場と地域との一体感が増し、さらに、ポスター・掲示により、現場や事務所内がやわらかい雰囲気となった。また、東京湾大感謝祭で「東京湾再生」について市民にアピールできた。